

「わたしに従ってきなさい」

詩篇
ヨハネによる福音書

第141篇 1節～7節
第21章 15節～23節

説教 岡村 恒 牧師

「わたしに従ってきなさい」(19節)この日、ペテロに語られた主イエスの言葉は、ペテロを新しい歩みへと導き入れました。ペテロと主イエスの関係が、根底から新しく作り直されたからです。そしてこの主イエスの言葉は、力強い慰めに満ちていました。

「わたしを愛するか」という主イエスに問いかけられても、ペテロは本来「はい」などと答える事ができない過去を持っていました。多くの説教を直接聴き、多くの奇跡を主のすぐそばで味わってきました。皆が主を裏切ってもペテロだけは残る、自他共にそう思う存在でした。しかしペテロは、主イエスの裁判の場面で三度、主イエスの弟子であることを否定しました。あらかじめ主に予告されていながら、主を知らないと言断してしまったのです。

もし私がペテロだったら。聖書を読みながら繰り返しそう考えさせられます。自他共に、一番弟子だと思っていたのに、主イエスに従うことに失敗してしまった。死から引き上げられた主イエスに、何度も、「あなたは私を愛するか」と問われてしまう。これは本当に耐えられないことだと思えます。

聖書は、私たちに向かって、このペテロはあなた自身だ、と語ります。このお方に従って行こうと決断して主イエスの弟子になったのに、主イエスへの愛が問われるような場面で、私たちはいつもペテロと同じ姿をしているということです。主イエスが言われるようには、従い通す事ができないのです。礼拝を第一にし、信仰者として誠実に歩んでいても、隣人の一人を愛する事ができない、そういうペテロなのです。

主イエスはペテロや私たちの弱さをよくご存知でした。主は最後の晩餐でペテロに言われました。「わたしはあなたの信仰がなくなるように、あなたのために祈った。」(ルカによる福音書 22章32節)。そして、ペテロと同じように、神を愛する事に失敗する私たちのために、主イエスは十字架の上でとりなしの祈りを祈り、その命を与え尽くして下さいました。

復活された主イエスは、ペテロに問いかけられました。「あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか。」(15節)無から天地宇宙をお創りになった神は、死人の中から主イエスを引き上げて下さいました。主の復活は確かな事実です。このお方が問いかけておられます。

主を捨てて逃げ去った弟子たちの前に、主イエスがおられます。パンを裂き、杯を祝福して差し出して下さいました。裏切りを非難されて当然の場面です。神は聖なるお方、正しいお方ですから、裁かれて当然なのです。しかし主イエスはなお、「わたしを愛するか」と問いかけて下さるお方です。神が私たちを愛して下さいる完全な愛(アガペー)で愛するかと問われても、人間が抱くことができる限界のある愛(フィリア)をもってしか愛することができない私たちです。しかし主イエスは、弟子たちを、私たちを愛し抜いて下さり、なお問いかけて下さるのです。

主が、完全な愛をもって愛して下さいたので、私たちもまたこの愛に招き入れられて、「わたしの小羊を養いなさい。」(15節)との命令の中に置かれます。これはありえない話です。三度裏切った者に、三度問いかけ、招いて下さった主が、ペテロを全く新しくして下さいました。

主イエスに従う人生は、本当に自由な人生です。人と自分を比べることからも解放されます。余分なものが目に入ってしまふ私たちを、「あなたはわたしを愛するか」と問いかけて下さる主が、ただ主だけを見上げて生きる本当に自由な人生に導き入れて下さるからです。そのためにこそ、主イエスは十字架に架かって下さったのです。

余分なものが目に入り、主イエスの言葉だけを聴けば良いのに、他の事に心を奪われてしまふ私たちに向かつて、主イエスは「あなたはわたしを愛するか」と呼びかけて下さいます。三度目に主イエスは、「愛(フィリア)」で愛するかと問いかけられました。人間の、限界のある愛で良い。神の完全な愛に招かれ、包み込まれている者として、精一杯の愛で応えて生きたら良いのです。主に委ねられた羊を飼いながら、賜物を御業のために用いて頂きながら、歩んでいけば良いのです

主イエスは、私たちが主に従って歩むことができるように、助け主である聖霊を送って下さいました。自分の力だけでは不可能でも、聖霊に助け導かれて、主イエスに従って行くことができるようになりました。主イエスが確かに復活され、今も生きておられる真実を証しながら、主の招きの中で、私たちは主に従って歩み続けるのです。

(記 岡村 恒)